

製品名: グリコーゲン合成酵素 1 (リン酸化 Ser645) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04739

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	83kDa

抗原情報

遺伝子名	GYS1
別名	GYS1; GYS; Glycogen [starch] synthase; muscle
遺伝子 ID	2997.0
SwissProt ID	P13807
免疫原	抗血清は、Ser645 のリン酸化部位周辺のヒトグリコーゲン合成酵素由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 611-660

背景

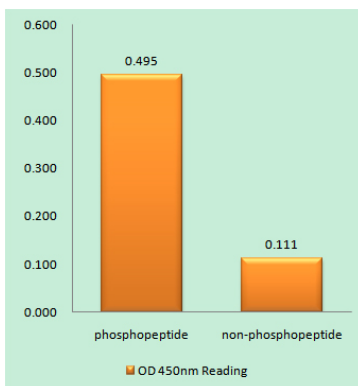
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、 α -1,4-グリコシド結合の形成を通じて、成長中のグリコーゲン分子へのグルコース

モノマーの付加を触媒する。この遺伝子の変異は、筋グリコーゲン貯蔵疾患と関連している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009年9月]、触媒活性: UDP-グルコース ((1->4) - α -D-グルコシル) (n) = UDP + ((1->4) - α -D-グルコシル) (n+1) 。疾患: GYS1 の欠陥は、筋グリコーゲン貯蔵疾患0型 (GSD0b) [MIM:611556]の原因である。筋グリコーゲン合成酵素欠損症とも呼ばれる。GSD0は、乳児期または幼児期に発症する空腹時低血糖を特徴とする代謝疾患である。筋グリコーゲンの役割は、活動の爆発的増加と持続的な筋活動において重要なエネルギーを供給することです。、酵素調節: グルコース-6-リン酸によるアロステリック活性化。リン酸化はUDP-グルコースに対する活性を低下させます。非リン酸化状態では、グリコーゲン合成酵素はアロステリック活性化因子としてグルコース-6-リン酸を必要としませんが、リン酸化状態では必要とします。、機能: UDP-グルコースから α -1,4-グルカンの非還元末端へグリコシル残基を転移します。、経路: グリカン生成; グリコーゲン生成。、類似性: グリコシルトランスフェラーゼ3ファミリーに属します。、

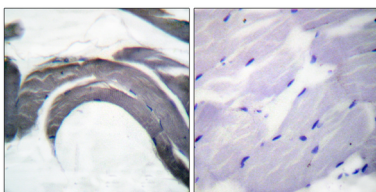
研究分野

デンプンとスクロースの代謝;インスリン受容体;

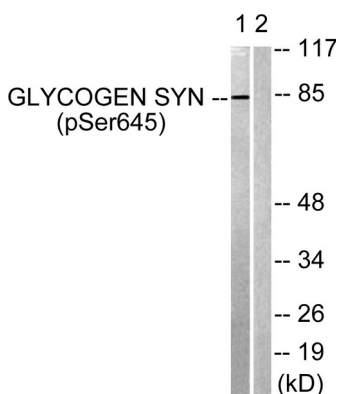
画像データ



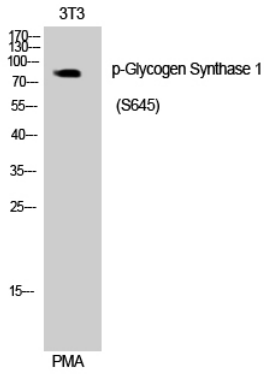
グリコーゲン合成酵素 (リン酸化 Ser645) 抗体を用いた、免疫原リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



グリコーゲン合成酵素 (リン酸化 Ser645) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



グリコーゲン合成酵素 (リン酸化 Ser645) 抗体を用いた、PMA 125 ng/ml 30分処理した NIH/3T3 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホグリコーゲン合成酵素 1 (S645) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析